

様式第 2 号

視察研修先	石川県かほく市議会	氏名	阿部 清
視察研修項目	公立保育施設の紙おむつのサブスク「手ぶら登園」について		
所 感 石川県のほぼ中央に位置し、面積 6 4 . 3 6 k m²・人口 3 6 , 4 8 6 名・世帯数 1 4 , 5 7 5 世帯、金沢市の発展とともにベッドタウンとして若者の移住が増えており、結婚・妊娠・出産・子育て施策や定住促進等に力を入れているまちでもある。 公立保育施設紙おむつのサブスク「手ぶら登園」について 市内のすべての公立保育施設全 8 園で、B A B Y J O B 株式会社の紙おむつ・おしりふきの定額サブスクサービスを利用し、定額料金を支払うことで紙おむつ、おしりふきが使い放題になるサービスである。 コドモンとの連携機能を活用し、保護者とおむつ会社の直接契約で、保護者に選択してもらい提供する事業で、市は利用機会の提供だけである。 メリットは、毎日おむつの名前を書いて子供に持たせることが不要になり、定額で何枚も利用でき、朝のバタバタする時間が軽減でき、新しく入園する親御さんからは、好評である。子育て経験者は、近くのスーパーで少しでも安い紙おむつを買い、車に積んでおいて、名前を書いて子供に持たせる親御さんが多いとのこと。どちらを選択しても問題なく対応している。忙しいお母さんの手助けになるのであれば、どちらを利用しても保育園では問題なく対応し、保育士からの苦情もないようだ。 令和 8 年度の利用率は、8 園で 1 , 0 7 4 名中、概ね 1 5 % の子供が利用しており、少しでも楽になる保護者がいれば今後も続けていく。パーセントは問題ではないとのことである。 定住促進・子育て支援事業が手厚く感じる。赤ちゃんすくすく応援事業、平成 1 9 年度から、出生時 1 人につき「かほく市共通商品券」を贈呈、1 , 2 人目 3 万円・3 人目 5 万円・4 人目以降 1 0 万円。令和 5 年度は、3 1 4 名 1 1 , 7 8 0 千円、高等学校通学鉄道定期券、高校 3 年間 3 6 ヶ月、令和 5 年から 7 7 1 名（半額助成）、令和 7 年度 2 8 , 5 6 1 千円等が実施されている。 金沢市の発展により、ベッドタウンとして人口が増えている中で、行政サービスをうまく活用している。各自治体の人口の取り合いにより、自治体の人口指数が大きくなってくる。全国で、人口減少が続くなか、周りの環境で人口の移動が続くのであれば最大限の活用が必要である。			

視察研修先	石川県加賀市議会	氏名	阿部 清
視察研修項目	ライドシェアによる新たな移動手段の提供について		
所 感			
石川県の南西部、福井県との県境に位置し、面積306km²・人口60,538人。令和6年3月16日北陸新幹線加賀温泉駅開業により、加賀温泉郷片山津温泉、山代温泉・山中温泉まで15分～30分、開業後の3温泉の入込客数90万人から180万人に。経済効果279億円。石川県内、インバウンド客増で48億円年増となっているが、人口減少が止まらない状況にある。			
加賀市版ライドシェアによる新たな移動手段の提供について			
令和6年3月16日の北陸新幹線の金沢以西開業により、来訪者の増加が見込まれる中、バス・タクシー事業者のドライバー不足が深刻で、十分な移動サービスの提供が見込めない状況にある。この解消のため令和6年3月から、自家用車を利用した地域の助け合いによる加賀市版ライドシェアを開始し、令和7年2月から運行拡大と運行時間を延長し、市民、観光客の移動手段を確保している。住民ドライバーには70名以上の応募があり、選考と研修を実施した方から稼働している。			
道路運送法 第78条 第2号交通空白地有償制度を活用し、自治体主導の自家用車を活用した公共型のライドシェアになる。			
実施主体 一般社団法人加賀市観光交流機構			
運行時間 7：00～23：00（金曜日、土曜日は翌2：00まで）			
予約・配車 利用方法スマホアプリ（Uber JAPAN）			
料金 タクシーの8割			
決済は、現金は扱わない。アプリでのオンライン決済となる。			
ドライバー 35人うち二種免許保有者15名 一種免許で大臣認定講習受講済			
年齢 20歳代～60歳代			
報酬 ドライバーの報酬は、売り上げの7割、後の3割は運営会社が分ける。			
安全管理・通行管理 金沢第一交通			
委託契約 加賀市観光交流機構がドライバーと業務委託契約 ※雇用契約ではない。			
運行管理者 タクシー会社			
配車依頼 加賀市観光交流機構が配車依頼、登録ドライバーへ			
乗客 観光客、高齢者、ビジネスマン等			
※加賀市版ライドシェア開設時に、郵便荷物の運送も検討し、試験的に行ったが、時間内での配達が困難なため、継続にいたらなかったが、今後の運営に期待がかかっているようだ。			
本市の現状においても、交通の空白地区や観光客の足として、寒河江市版ライドシェアの開設の検討も必要と考える。しかし、現状の公共交通や循環バス等の交通網の在り方についての再点検が必要であり、若者から高齢者までが利用できる利用しやすい交通網の検討が必要であり、広域的な循環交通網の構築が必要な時代になってきている。左沢線、山形交通バスや現状の本市が行っている循環バス運行だけでは、市民がついていけなくなっている。 行政主導の目線ではなく、市民目線に立ち、若者が住みたくなる街を探し、考えていかなければならないと考える。			

視察研修先	福井県あわら市議会	氏名	阿部 清
視察研修項目	学力向上の取り組みについて		

所 感

福井県の最北端に位置し、北は石川県加賀市、南は坂井市に接している。面積 116.98 km²、人口 25,437 人、世帯数約 10,000 件、北陸新幹線芦原温泉駅の開業により交通アクセスが向上し、温泉観光と豊かな自然・農業が調和した町であるが、人口減少が止まらない町でもある。

学力向上の取り組みについて

全国学力・学習状況調査では、福井県は学力水準が高いことで知られている。今年も秋田県、福井県、石川県などの北陸地方が上位を占めており、学力だけでなく夢や希望を持ち個性が輝く教育を推進している。

「知」確かな学力「徳」豊かな心「体」たくましい体のバランスの取れた総合的な学力を育むことを目指し、各学校の特性を生かした教育活動を行っており、地域と行政が一体となって子供の健全育成を実践している。

小学校 7 校 中学校 2 校 令和 8 年度 1,709 人

1, 学力向上の取り組みは、バランスの取れた総合的な学力を目指して、全国学力テストでは、平均を上回る高い正答率を維持している。その中心となる取り組みは、全国学力テスト・学習状況調査の迅速な分析や市の独自テストの実施、ICT 教育及び 2 学期制の導入など多岐にわたり導入している。

全国学力・学習状況調査終了直後から、振り返りによる自己採点・各学校の独自分析・全教員による分析結果の共有・各学校での授業改善などマニュアルに沿って進められる。また、市独自に小 2～小 5 の 4 つの学年で、全国学力テストと同じ日に学力テストを実施している。

2, 小学校英語（外国語）では必ず授業を公開しており、教科担任制を導入、県費による英語専科教員 2 名で 6 校兼務し、免許所有者が、5, 6 年の英語を担当している。

3, 県独自の学力調査を小 5 と中 2 で毎年 12 月に実施し、結果の分析をして全教員で課題を共有し、次年度 4 月の全国テストに向けて授業改善をしていく取り組みが行われている。

学力向上のサイクルは 1951 年からスタートし、4 月学力向上計画—4 月全国学調、市学調—4～5 全国学調独自分析—5～7 月授業改善—7～8 月学調結果—8 月再分析—9～12 月授業改善—12 月県独自の学力調査—12～1 月再分析—1～3 月授業改善—4 月学力プランを毎年実施しており、効果を出し続けている。

福井県の学力水準が高いといわれる理由

1, 知・徳・体のバランスの取れた総合的な学力の育成を目標としており、授業時間の確保を目的とした 2 学期制の導入、市独自の学力調査の実施。ALT や学習指導員の積極的な配置による強力なサポートをしている。

2, 1 人の教師は 1 つの学年を受け持つのが当たり前、これを数学の教師が 1 年生から 3 年生までの 1 組と受け持ち、もう 1 人の数学の教師が同じく 1 年から 3 年までの 2 組を受け持つ、というように学年を縦断する形で授業を受け持つことを「たて持ち」というようです。・・・教師の準備時間が増える。日常の積み重ねが、結果として学力を向上させているようだ。

山形県は、中堅順位であるが、あわら市は、昭和時代から、培われた教育方針があり、その努力が実って結果が続いている。寒河江市は寒河江市の教育方針の

中で、共に学び、共に育み、元気にたくましく、育っていくことを願っている。